

重電機製造業における死傷災害発生事例（2017年）

年	月	発生時	死傷災害発生事例	年齢	起因物 (小)	事故の 型	労働者規 模
2017	1	16~17	工場内の大型コアチーム作業場で、トランス製造に於ける鉄芯準備作業中、作業台に寝かせてある鉄芯を3人1組で起こそうとした際、起こした反動で床ずれし、支えようとした際に背部と腰部を痛めた。なお、痛める以前より、元々ある持病の腰痛に違和感があり、痛みもあった。	36	921	19	100 ~ 299
2017	1	18~19	段取り作業中に、分断プレスでフープ材を取り除こうとした時に、スイッチを手動にするのを忘れ、又安全扉を開けずに、切り込み口から左手を入れて取り除こうとしたため「ながらスイッチ」に体が触れてしまい、プレスが動き、金型に左手の指が挟まれてしまった。	48	154	7	100 ~ 299
2017	2	13~14	紙加工場にて手袋をはめたまま、プレスボード（厚さ3.2mm×110mm×80mm）のベンディング作業中により丸めようと通常作業と異なり、手をローラー近くに持って行ってしまったところ、手袋の先がローラーに挟まり、指まで挟まれてしまった。	36	163	7	30~ 49
2017	2	9~10	スポット加工エリアで金具スポット溶接加工をされていて同じ作業台で2種類の作業を実施した。バフ掛けの扉を移動する際ローラーが回転し打点位置に来てしまった。その為、右手親指爪部を創傷してしまった。	44	339	7	500 ~ 999
			伝票の処理のため、2階設計室を出て1階の事務所向かった。伝票と資料の入ったクリアファイルのみを右手に持ち階段の中央を降				300

2017	3	14~15	りていた際、2階から1階の途中の中間フロアまでの10段の階段の中間部分でつまずき、中間フロアに飛び降りる形となり前のめりで倒れ、左手で全体重を支える形になった。	34	413	1	~ 499
2017	3	15~16	電動機分解作業において、固定子をクレーンで移動した後、踏み台を使用して点検口（高さ1430mm）から内部に入り、玉掛用ワイヤーを外した。内部から退出するため、点検口から前向きに踏み台の最上段（高さ900mm）に移ったときに踏み台が右側に傾き、バランスを崩して作業床に転落した。その際、踏み台横にあった単管足場パイプと被災者本人の身体の間で左手を挟み、左手首を骨折した。踏み台が傾いた原因は、踏み台が40mmの段差のある場所に置かれており元々傾いていたことと、点検口が狭く足元を十分確認できなかったことが考えられる。	55	371	1	100 ~ 299
2017	3	15~16	電動機分解作業において、固定子をクレーンで移動した後、踏み台を使用して点検口（高さ1430mm）から内部に入り、玉掛用ワイヤーを外した。内部から退出するため、点検口から前向きに踏み台の最上段（高さ900mm）に移ったときに踏み台が右側に傾き、バランスを崩して作業床に転落した。その際、踏み台横にあった単管足場パイプと被災者本人の身体の間で左手を挟み、左手首を骨折した。踏み台が傾いた原因は、踏み台が40mmの段差のある場所に置かれており元々傾いていたことと、点検口が狭く足元を十分確認できなかったことが考えられる。	55	371	1	1~9
2017	3	8~9	組織変更に伴う設計棟室内引っ越し作業にて、図面収納棚の引き出し（横幅900×奥行700×深さ70重量約4kg）を両手で押さえ運搬中、床に置いていたダンボール箱（300×300×400）に気付かず躓き転倒した。	67	611	2	300 ~ 499
2017	3	16~17	工場の方から音がしたので行ってみると、被災者が転倒した状態で頭部から血を出して意識なく顔面が血の気なく仰向けになっていた。頬を2、3度叩いたが反応がないので、2人が交替で人工呼吸を	29	417	2	10~ 29

			し、頭部をタオル（ぬらした）3枚で止血した。その後、被災者の意識は戻った。				
2017	3	9~10	当事業所内にて、フライス盤で真鍮板を加工中、刃物が右腕の服に引っ掛かり、巻き込まれ負傷した。	74	152	7	1~9
2017	3	9~10	工場チップコンベア近くで、鉄箱の入った廃棄品を廃棄用鉄箱に移している際、鉄箱のバランスが崩れ、鉄箱が倒れ左足甲を挟まれ負傷した。	34	611	4	300 ~ 499
2017	3	11~12	オーロラビジョンの表示モジュール（約200kg）を移動させていた時、出荷用架台に取り付けられたキャスターが急に止まり、モジュールが移動方向へ転倒した。作業は2名で実施していたが、進行方向に対して左側スペースが狭かったため、モジュール左側の作業員が逃げ遅れて左膝を打撲し受傷した。（モジュール：W2,601mm、H2,193mm、D300mm、重さ約200kg）	39	611	6	500 ~ 999
2017	4	14~15	配送先1にて2tトラックより荷下ろし作業中、荷台より荷物を引き出す際に荷物が段差に掛かり腰を捻る。配送先2にて、配送先2の従業員と共にアルミ鋳物製品が入った木箱（総重量約20kg、数量9個）の積込作業を行っている時、手持ちで距離約7mを移動中、腰を痛めた。	54	611	19	30~ 49
2017	4	11~12	モーター梱包作業後、パレットから一段下のパレットに荷物を移す際に一人で荷物を持ち上げたとき、斜めの角度で持ち上げてしまい、腰と右脇腹を痛めてしまった。	41	611	19	300 ~ 499
2017	6	11~12	事業所内の第2工場にてワインダー（シート巻取機）上部のヒーター交換のため、高さ8m程度を登り、端子箱の配線作業をしていたところ、作業員に気付かず、別作業員がクレーンを操作し、後方からクレーンが移動してきた。作業員に気づきクレーンを停止するも惰性で動いてしまい、作業員がクレーンとヒーターユニットに挟まれて、胸骨にひびが入る負傷を負った。	27	211	7	10~ 29
			モータ用歯切り加工にて、ワークをセットして起動後、ワークより				

2017	6	10~ 11	奥側の切粉を取ろう（清掃）とし、後ろ側から左手を回して作業したところ、ビニール手袋が大きく、先端部分が歯切り設備（ボブ）に巻き込まれ、一緒に指も巻き込まれた。巻き込まれると同時に停止ボタンを押し、手を引き抜いたが、既に左手指四本を損傷していた。	37	159	7	500 ~ 999
2017	6	9~ 10	日勤開始後、床置きされた3台のコンデンサ（W150×D570×H400mm、重さ24kg）を手で持って、約5m先の台車に一人で運ぶ作業をしていたところ、2台目を持ち上げた瞬間に腰に痛みを感じ、一旦は下ろしたが持ち直して再度台車まで運び、痛みはあったが3台目も一人で運んだ。その後も痛みはあったが、デスクワークのため作業を継続し、昼休憩時に痛みが酷くて動けなくなったため、病院へ搬送された。本来の手順は装置の表示重量を確認し、20kgを超えている場合は必ず二人作業とするところ、重量を確認せず一人で運んだことが原因と思われる。	31	921	19	1000 ~ 9999
2017	6	17~ 18	製品検査作業場において、始動器盤の上部を脚立を使用して電線取り外し作業中、本来であれば、電源を遮断して作業を実施するところ、電源が入ったままの状態です盤内の通電箇所（銅帯部分）に両腕が接触し、440V電圧に感電して火傷を負い、感電ショックによる意識混濁となった。	25	352	13	300 ~ 499
2017	6	13~ 14	電気工事で、アイアンワーカーを使い銅バーを切断している時、カッターの上のシリンダー（ピストン）が下降して来て、指を挟まれ負傷した。	60	159	7	30~ 49
2017	7	17~18	当社第3工場にてシャフト加工の縦型ラック製造の段取り作業中、素手でラックダイスを交換・セットする際に、手を滑らせてダイスが落下しそうになったために、更に強く握ったところダイスの角で左手小指第2関節部を切創し屈曲腱を断裂した。	50	169	8	100 ~ 299
			高さ2mのキャビネットの組立作業場所で高さ75cmの足場台に乗り、キャビネットの拭き掃除をしている時にしゃがんだ状態で作業				

2017	7	16~17	を終了し足場台の階段を使用せず、後ろ向きのまま直接床に降りようとした時に、バランスを崩して臀部から床に落下した。当日は、本人より少し痛みはあるが、様子を見るとのことで、翌日痛みが続いていた。	37	371	1	300 ~ 499
2017	7	11~12	工場にて、前処理作業場で、サンダ掛けをするため、品物（50~60kg程度の鉄の箱）を床から台へ移動させようとしてしゃがみ、品物を持ち上げようとした瞬間、腰のあたりにズキとした痛みが発生した。痛みはあったが作業はできたので、無理せず終業まで続けた。その後痛みが引かなかった。	26	611	19	30~ 49
2017	7	16~17	倉庫保管の為、ダンボール梱包された製品7箱をパレットに積み、荷崩れ防止用のラップ巻き作業を行っていたときに、隣のパレットと隙間が狭く、パレットの隙間に足を挟み、体勢を崩して転倒した。転倒時に両手でラップの芯を保持していたため、右手の拳で床をパンチする格好となり、右手中指、薬指を負傷した。倉庫は派遣先2名、派遣元2名の計4名で管理しているもので、倉庫の管理は事務所で行っている。	50	379	2	100 ~ 299
2017	7	12~13	公団BOX枠組付け溶接工程において、台座に切断材料をセットし、起動ボタンを押した。材料のセット状態を確認したとき、材料が乗り上げていた。以前、その状態で作業を続行し機械の故障をまねいたため、咄嗟に自動運転中にもかかわらず、機械の中に手を入れてしまった。その結果、クランプと材料の間に右手親指が挟まった。	25	169	7	—
2017	10	13~14	当社工場内にて、金属製品の板金、塗装作業中、研磨作業を終えて、脚立から降り、後ろ向きのまま数歩下がった時、パレットに足を引っ掛けてつまずき、背中より転倒した。転倒の際、両手をついたため両手首を負傷した。	66	379	2	30~ 49
			工場内作業場に於いて、配電盤（高さ2100mm幅800mm奥行600mm）				

2017	10	11~ 12	をリフターを使用して床上40cm程吊り上げ配電盤の底部分に鉄板（約25kg）を取り付ける際バランスを崩し、鉄板を持った状態で上体を急激に捻って左膝から床に崩れ落ちた。上体を急激に捻った瞬間、左側腰部に激痛が走り、動けなくなってしまった。	51	611	19	50~ 99
2017	10	11~ 12	出張先の構内作業場にある操作盤の扉を開けて配線の調査をしていたところ、操作盤の脇を転がっていた直径2m重さ約2tの原反が操作盤の扉にあたり、扉を押し広げた状態で、その先にあるコンベアの手前で原反が停止した。原反を傷つけないよう扉を奥に開こうとして手を出した時に、コンベアにのった原反が動き出し、操作盤の扉と原反に両手を挟まれ負傷したものである。	46	224	7	100 ~ 299
2017	10	11~ 12	就業場所の板金エリアで、レーザー加工機が停止してしまい、切り抜きを左手で上から押さえて落とそうとしたところ、切り抜きが下方へ動いたと同時に機械のセンターテーブルが移動し、切り抜きと左手がフィラーテーブルとセンターテーブルの間に挟まり、左手を負傷した。	35	159	7	300 ~ 499
2017	10	19~ 20	塗装工場へ荷物を運搬し荷降ろし作業中、被災者は4トントラックの荷台で荷張りを解いた後、荷台のあおり（地上高156cm）に足をかけて地面に降りようとしたところ同僚があおりを下げようと固定具を外したため、足元がぐらつきバランスを崩して着地に失敗し転倒した。頭部とわき腹を打撲負傷した。	35	221	1	50~ 99
2017	11	13~ 14	Bラインで、塗装製品（金属製の棒など4、5本）を約3m上方のレールに設置してあるハンガー（長さ180cm×幅10cm×厚さ5cm／滑車＋塗装製品の重さ40～50kg）に吊るしてスライド移動する作業中、進行方向レールの切替操作を行った際、レールが正しくつながる前にハンガーを移動させてしまい、吊るした製品がレールのつなぎ目からハンガーごと落下した。咄嗟に落下したハンガーを避けようとしたが間に合わず頭をかばって覆った手の甲に当たり、右手甲部位と、同時に、その衝撃で頸椎を痛めて受傷したものであ	52	379	4	100 ~ 299

			る。				
2017	11	9~ 10	加工機が並ぶ6棟円筒研削盤6L5Pにてメンテナンスのため、砥石軸駆動用ベルトの交換を実施した。動作確認として、砥石軸を回転させたところ、ベルトのバタつきを発見した。調査のため、一旦停止させ、ベルトを手で持って、手送りで砥石軸を回転させた。バタつきを見るため、速く回転させる必要があり、何度も手送りし、スピードを上げたところ、ベルトとプーリーの間に左人差し指を挟まれた。	32	121	7	100 ~ 299
2017	12	9~10	プレス機の修理で、油圧シリンダ内のエア抜き作業中、エア抜きを確認する際、油が出るエルボ部を右手で握り、シリンダ上部にあるソレノイドを手動でON・OFFさせ動作確認していた。シャフトが下がった際、シャフト座面とエルボに右手中指が挟まれた。	41	154	7	300 ~ 499

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_06.html